

# Book

今月の新刊

●お申し込みはお近くの書店まで

## 人生の終いじたく

だって気になるじゃない、死んだ後のこと  
中村メイコ・著

80歳まででころっと死にたい。好きな寝巻きを着て、最期は病院で迎えたい。最期の瞬間は一人がいい。75歳を迎えた女優・中村メイコが、理想とする最期を迎える準備としてつづった、たいせつな人たちへの明るいラストメッセージです。■青春出版社・1470円



## 孤舟

Watanabe Junichi



## 孤舟

渡辺淳一・著

大手広告代理店の役員に上り詰め、子会社への出向を断って定年退職した大谷威一郎。定年前は好きな本を読み、フランス語は好きで、妻とのんびり旅にも出たい、そして新しい恋も……と思いついて描いていましたが、現実とは想像とまったく違うものでした。暇をもてあまし、妻の

生活に干渉したあげく、邪険にされる日々。そんなある日、ふとインターネットでデートクラブの広告が目に入り、思いきって入会。27歳のOLに会うのですが……。定年まで家庭を顧みなかった仕事人間の夫と、これまでの生活リズムをくずされる妻のストレス。袋小路に追い込まれた夫婦の、蘇生への萌芽を描いた物語です。■集英社・1680円



## 「地元」の力

地域力創造7つの法則  
金丸弘美・著

「地元」の個性を見直し、自分たちの手でふるさとを再生しよう。そんな願いを胸に立ち上がった18の地域が、独自の工夫と努力で活力を取り戻していく過程を丹念に取材しています。日本を元気にするアイデア満載の成功ストーリーです。■NTT出版・1680円

## ほこりまみれの兄弟

ローズマリー・サトクリフ・作  
乾侑美子・訳

みなしごの少年・ヒューは、冷酷な叔母の手元から、愛犬アルゴスとともに逃げ出します。途中出会った旅芸人一座の優しさに包まれて成長していきますが、やがて別れが……。カーネギー賞受賞作家がのこした若き日の秀作。小学高学年～中学生向き。■評論社・1785円



## 家の光の新刊

●お申し込みはお近くのJAへ



## 協同組合の時代と農協の役割

高谷栄一・著

農協の基礎である「自治村落」としての村落共同体が脆弱化しているなか、地域コミュニティの再生を図ることが重要です。日本農業の生産力回復や農村を活性化させるための農協のあり方や方向性について、現実的な農協論、協同組合論を展開。■1680円

## もどさずできる乾物料理

庄司いずみ・著

水につけてもどさず作る乾物料理。煮物は、乾物のうまみが溶け出し、だしらす。いため物は、ほかの素材の水分を吸ってしゃっきりと。和え物は、水っぽくならず、おいしさももちます。切り干し大根、ヒジキ、高野豆腐、乾など128レシピを紹介。■1365円



## 漬けもの名人が教える おいしい浅漬け

針塚藤重・著

野菜のもつ発酵力を生かした技を使った「ほんもののおいしい浅漬け」の作り方を、名人がていねいに教えます。旬の新鮮な野菜に質のよい塩とコンブ、赤トウガラシ、麴をそろえれば、サ

ラダのようなみずみずしい自家製の漬け物が楽しめます。ハクサイ、ダイコン、ナス、キュウリ、菜の花やフキ、ブロッコリーなど、全部で31種類の野菜を使った浅漬けの作り方を紹介。減塩、無添加で野菜のうまみがたっぷり、安全・安心なおいしい浅漬けを毎日の食卓に。■1260円